

2016年度 関西学院初等部 学校評価を終えて

関西学院では、2008年度に初等部が開校して以来、初等部・中学部・高等部が共同し、一貫性のとれた学校評価制度を構築し、互いに連携を取り、学校評価の実施と結果の公表に取り組んできました。

2010年度からは、幼稚園から大学院まで連なる関西学院の強みを生かし、接続する学校の先生方に、専門的な視点からのご意見を伺うことで第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。

2016年度の初等部の取組は、「キリスト教主義教育」「教育課程・学習指導」「生徒指導」「研修（資質向上の取組）」の4項目を重点として、評価項目を設定しました。

評価の実施にあたっては、各項目について児童、保護者、教員にアンケートを実施し（回収率①児童99.1%、②保護者71.8%、③教員100%）、それぞれの立場からの回答を得ることにより客観性を確保するとともに、回答者個々の意見も重視するよう努めました。

次に、アンケートの集計結果を分析するとともに、各重点項目についての初等部の取組状況を教職員が総括し、今年度の取組に分析、評価を加え、今後の改善の具体的方策を示し、初等部の自己点検・評価としました。

さらに、それらについて関西学院幼稚園園長、中学部部长、教育学部准教授及び評価情報分析室副室長の専門的視点に基づくご意見を「第三者評価／学校関係者評価」とし、合わせて初等部の学校評価としてまとめました。

本日、関西学院評価推進委員会（2017年3月10日）において、初等部の学校評価が協議・承認されました。

初等部は関西学院がめざす世界市民の育成にむけた全人教育の土台を培う大切な役割を担っていることをしっかりと自覚し、“Mastery for Service”を子どもたちが体現していけるよう、教員の力量を高め、保護者の理解と協力を得て、より質の高い初等部の教育活動を展開しなければなりません。

関西学院初等部として、本学校評価の結果を真摯にとらえ、教職員一人ひとりが自らの課題を探り、組織としてその課題解決に向かって取組を進め、今後もさらなる改革を図ります。

2016年度初等部の学校評価を項目別に次頁以降に記し、Web上で公表することにより、社会的信頼を高めるよう努めたいと考えています。

2017年3月10日
関西学院初等部
校長 田近敏之

学校評価

教育理念・使命・目標

【教育理念・使命】

キリスト教主義に基づく全人教育の「はじめの一步」を担う。

【目標】

キリスト教主義教育を土台とした「建学の精神」を体得し、スクールモットーである“Mastery for Service”の実現をめざし、知性・情操・意志を備えた児童を育てる。

【初等部聖句】

「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」

[意志]

[知性]

[情操]

2016年度の評価項目

・キリスト教主義教育

初等部の教育の根幹をなすため、評価項目として設定した。

・教育課程・学習指導

教育理念にふさわしいカリキュラムを編成するために、この項目を設定した。

・生徒指導

児童が安心して生活できる学校づくりをめざしているため、この項目を設定した。

・研修（資質向上の取組）

より質の高い授業の実現を図るため、毎年の評価項目としている。

2016年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教主義に基づく、たくましい生き方の育成】	自己評価	A
目標	建学の精神に基づき、キリスト教主義教育を初等部のあらゆる教育活動の中で展開し、児童がキリスト教の精神やスクールモットー“Mastery for Service”の精神を体得できるようにする。そのためにすべての教員、また保護者がその精神について共通理解をもち児童に向き合えるようにする。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>関西学院の建学の精神であるキリスト教主義教育を具体化するために、初等部では様々な取組を行っている。毎朝の礼拝、聖書科の授業、各宗教行事はもちろん、学校生活の様々な機会にキリスト教主義に基づく精神、スクールモットー“Mastery for Service”の意味や、人としてどう生きるべきかについて考える時間を大切にしている。</p> <p>今回の児童に対する学校評価アンケート項目「こころの時間や聖書の時間は、あなたにとって、大切な時間だと思いますか。」に対する肯定的な回答は93.2%であった。昨年度と比較して「強くそう思う」と回答した割合が4.6%増加しており、このことからキリスト教主義教育が児童の中に深く浸透してきていることが分かる。</p> <p>保護者に対しては全学年の保護者対象の聖書講座（年間3回）に加え、PTA活動の一環として学年ごとに「聖書に親しむ会」を実施、また児童と共に礼拝を守る機会を提供している。これらを通して、関西学院のキリスト教主義教育について、また聖書を共に学ぶ機会をもっている。さらに新入生の保護者に対しても、入学前の2回のオリエンテーション、入学後のオリエンテーションで、初等部のキリスト</p>		

	<p>教主義教育についても講話を行い、キリスト教主義教育の理念を共有する機会をもっている。</p> <p>保護者アンケート「学校は、キリスト教主義教育の理念について、保護者と共有する機会を設けている。」に対しては、肯定的な回答の割合が 96.2%であり、「強くそう思う」の割合が、昨年度の 52.3%から 56.8%と増加している。全学年保護者を対象としている「聖書講座」に加えて、PTAと協力して開催している「聖書に親しむ会」が定着してきたことがその理由と考えられる。また「学校は、キリスト教主義に基づき、人を思いやる気持ちや態度を育てている。」の質問に対しても、肯定的な回答の割合が 90.5%となっており、「強くそう思う」と回答した割合が昨年度と比較して 5.4%増加している。このことからキリスト教主義教育の良さを保護者が実感してくださっていることが分かる。しかし 9.5%の保護者が否定的な回答をしていることも事実であり、そのことを受けとめ、初等部の教育活動の中で、さらにキリスト教主義教育を具体的に生かす工夫をしていく。</p> <p>教職員も様々な研修会などを通して、自らがキリスト教主義教育の担い手であるという自覚をもち、初等部の教育の働きを担っている。教員アンケート「私は、礼拝や研修を通してキリスト教主義教育の理念を共有している。」に対する肯定的な回答が 3年連続 100%と全員が肯定的な回答をしており、更に「強くそう思う」と答えた教員の割合が昨年度と比較して 10.3%増加している。また、教員アンケート「学校はキリスト教主義教育を学校生活の中で具体化している。」の質問に対しても 96.6%が肯定的な回答をしている。このことから、キリスト教主義教育を土台とした教育活動を日々行い、具体化しようとする教員の高い意識を読み取ることができる。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>学校評価アンケートの結果を通して、初等部のキリスト教主義教育が大部分の児童・保護者・教員に肯定的に受け止められていることが分かる。しかし、これに満足することなく、より深く、より充実したキリスト教主義教育を展開していくための努力を継続していく。</p> <p>礼拝を大切に守り続けること、聖書の学び、様々な宗教プログラムなどを通して、より深くキリスト教の精神やスクールモットー“Mastery for Service”の精神を具体的に感じられるようにしていく。またすべての教員が、ベクトルを合わせてより深く自らがキリスト教主義教育の担い手であるという意識をもって児童・保護者と向き合っていけるような研修や取組を充実していく。</p>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>教育課程・学習指導 【真理を探究する確かな学力の育成】</p>	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
<p>目標</p>	<p>「キリスト教主義に基づく全人教育による人格形成」を念頭に「各教科の特性や児童の興味・関心に応じた教育課程の工夫」また、「学力の的確な把握」、「豊かな情操を育む芸術文化活動」をめざす。</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p>【具体的な取組の状況】</p> <p>○児童の興味や関心を踏まえた各教科のシラバスを作成し、研修委員会とも連携しながら「わかる」「できる」授業づくりを行ってきた。また、校内授業研究会や教員各自の自主的な研究活動も積極的に行った。</p> <p>○5、6年生ではその教科の専門性や学年の発達段階を鑑み、教科担任制を取り入れ、より質の高い授業づくりに取組んだ。</p> <p>○特色ある教育活動の一つとして一貫して取組んできた「KGタイム」でも、その専門性を高めるために専科制を取り入れ、「数学的思考力」を高めたり、国語学習における表現力につながる「書く力」の向上を図ってきた。また、英語学習を1年生から先行的に行い、コミュニケーション力の育成を図った。さらに高学年ではカ</p>		

ナダコミュニケーションツアー（CCT）に向けて、カナダの文化や歴史など深く国際理解につながる学習にも取り組んだ。

○「学力的確な評価」を行うために、「通知書」の評価観点や評価規準の見直しを行った。また、その評価をもとにし、必要に応じて学力向上に向けた「補習授業」を行った。

○「体育祭」「音楽祭」「マラソン大会」では、それに向けての学習の過程も大切にするため、特別時間割を設け実施した。そうすることで単に技能を伸ばすだけでなく、仲間との絆やそれに懸ける士気を高めた。また、日頃の図工授業で制作した絵画作品や立体作品を展示する「作品展」を行い、芸術の楽しさを知ったり、友だちのすばらしい一面に気づいたりする機会とした。「文化芸術教室」は児童の興味や関心に沿った体験的教室として実施した。

【学校評価アンケートによる評価】

児童アンケート「授業では、新しいことをたくさん知ることができますか。」でも肯定的評価が 93.0%と高い。また、保護者アンケート「学校は、基礎的知識や技能が定着する授業を行っている。」では 83.8%の肯定的評価、保護者アンケート「学校は、基礎的知識や技能を活用する場面を取り入れた授業を行っている。」では 80.0%の肯定的評価であった。このことから、初等部教員の授業づくりへの取組が成果として表れてきていることがわかる。昨年度からの評価を見てもこの観点については安定感が見られる。さらに、児童のアンケート「授業は楽しいですか。」で 93.3%の肯定的評価、児童アンケート「授業はわかりやすいですか。」では、93.5%の肯定的評価となっている。授業が「楽しい」「わかる」ということを児童自身が実感していることが窺える。また、保護者アンケート「学校は、楽しく分かりやすい授業にするために工夫をしている。」では、88.4%の肯定的評価を得ている。これについては、「学校が楽しい」につながる重要な要因でもあり、非常に大事な視点である。この観点の高評価は非常に望ましいと捉えている。

保護者アンケート「学校は、子どもの学力を把握している。」では、83.6%の肯定的評価、保護者アンケート「学校は、子どもの学力を保護者にきちんと伝えている。」では、78.8%の肯定的評価であった。この結果は昨年度よりも僅かではあるがポイントを下げている。子どもの学力を伝える方法としては「通知書」「家庭訪問」「期末個人懇談会」「学期末テスト」「実力テスト」等を主として実施している。その中でも、最も大きなものとしては「通知書」である。これについては2年前から通知書検討委員会を立ち上げ、定期的に見直しを図ってきた。しかし、十分に保護者に伝わるまでに至っていない。その内容を見える形で示すことができていないことが要因として考えられる。一方で教員アンケートでは「私は、児童の客観的な学力把握に努めている。」では、96.6%の肯定的評価、「私は評価規準により、的確な評価を行っている。」96.6%の肯定的評価と高い。授業評価に対する教員の意識は高い。

初等部教育の特色である「KGタイム」の評価については、児童アンケート「『風』の時間は好きですか。」肯定的評価 90.4%、児童アンケート「『力』の時間は好きですか。」肯定的評価 88.8%、児童アンケート「英語は好きですか。」肯定的評価 69.2%であった。保護者アンケート「学校は、『風』の時間を通して、豊かに言葉を使える力を育てている。」では肯定的評価 83.9%、保護者アンケート「学校は『力』の時間を通して、論理的に思考する力を育てている。」肯定的評価 74.6%、保護者アンケート「学校は、英語教育を通して、英語によるコミュニケーション能力を育てるとともに、基本スキルを定着させている。」肯定的評価 65.2%であった。「力」「風」については保護者、児童共に肯定的評価が高い。「光」については昨年と比べると、若干ではあるがポイントを上げている。「風」「力」との特性の違いは否め

	<p>ないが、学習内容だけでなく指導方法や指導体制についての工夫が必要である。</p> <p>児童アンケート「音楽や図工は好きですか。」肯定的評価 95.3%と高い。また、保護者アンケート「学校は、音楽、美術（図工）を中心とした芸術教育を通して、子どもの豊かな感性を育てている。」では 92.1%の肯定的評価を得ている。日々の授業の成果とそれを表現する場である「音楽祭」「作品展」の行事としての成熟度が窺える。特に保護者にとっては子どもの頑張りが感じられる大きな場であることも高評価の要因だと考えられる。</p>
今後の方策	<p>今後も研修委員会との連携を図り、児童が「わかる」「できる」授業づくりをめざす。</p> <p>評価の在り方については、引き続き通知書検討委員会を中心とした検討が必要である。その上で、保護者へは具体的でわかりやすい評価を見える形で示していかねなければならない。</p> <p>KGタイムについては検討が必要である。「風」「力」については高い肯定的評価を得ているが、児童の真の学力となっているかを今一度考察し、学習内容やあり方について考える。</p> <p>「光」については、様々な指導方法を常に情報交換し、より良い学習活動になるように常に積み重ねていく。</p>

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【児童が命の大切さを感じ、よりよい人間関係を築くことができる指導を進める。】	自己評価	A
目標	キリスト教主義教育に基づいて指導にあたり、生命の大切さを重んじる心、互いを思いやる心を持つ児童、また、社会の一員として責任ある態度を持ち、よりよい生活を築いていこうとする児童を育てる。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>【具体的な取組の状況】</p> <p>○避難訓練や外部講師による安全指導などの機会を通して、自らの命の大切さ、周囲への配慮などについて意識を高める機会を持ってきた。そのため、児童の安全意識やお互いへの配慮などは避難訓練や講義に真摯に向き合う態度に表れてきた。</p> <p>○宗教委員会と連携し、朝の礼拝や講話を通じ、命の大切さを伝える機会を意図的に増やしてきた。すべての教員が複数回の礼拝講話により、キリスト教主義教育に基づく道徳観や倫理観などをもとにして、命の大切さや思いやりなどを伝えるようにしてきた。礼拝後に講話の感想を話す児童の姿を多く見ることができたのは、成果の表れてきている一例である。</p> <p>○研修委員会と連携し、今年度も研修テーマ「“Mastery for Service”の実現へ向けて」に合わせ授業を通じた仲間づくりを図ってきた。関西学院のモットーである“Mastery for Service”を念頭に、仲間づくりや思いやりのある関係構築を進めてきた。今年度のキリスト教学校教育同盟西日本研修会では、全教員が関西学院初等部のキリスト教主義教育のあり方を研修して臨んだことで、授業公開や討議会の場では、児童への指導や児童の心への働きかけについて学びを深めることができた。</p> <p>○生活指導上、個別に指導すべき事象が起きたときは、担任、学年主任、学事委員会、管理職が連絡を密にし、即時対応を心掛けてきた。必要に応じて保護者の来校を依頼し、課題を共有し、解決や向上のための対話を速やかに行ってきた。そのため、学校と保護者が課題を共有しやすく、解決への道筋を見出しやすかった。</p> <p>○昨年度の学校評価シートでの振り返りを受けて、教師会の中で、学事委員会から1ヵ月内に起きた生活指導上の事象について、また、その対応や今後の留意事項などを口頭で報告する時間を設けた。すべての教師が情報を共有すると同時に、再発</p>		

	<p>防止にむけて教員が自身の指導を振り返る機会とすることができた。</p> <p>【その効果に対する評価】</p> <p>保護者アンケート「学校は、集団生活に関するルールやマナーについて適切な指導をしている。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合(2015年度 83.3%→2016年度 87.4%)</p> <p>保護者アンケート「学校は、しっかりと挨拶ができるように指導している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合(2015年度 83.9%→2016年度 84.3%)</p> <p>教員アンケート「学校は、キリスト教主義教育を学校生活の中で具体化している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教員の割合(2015年 96.3%→2016年度 96.6%)</p> <p>教員アンケート「私は、挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーが児童に身につくよう適切に指導している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教員の割合(2015年度 76.9%→2016年度 100%)</p> <p>保護者アンケート「学校は、命の大切さや望ましい仲間関係の育成などについて、指導している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合(2015年度 85.1%→2016年度 87.7%)</p> <p>教員アンケート「私は、命の大切さや良好な人間関係をつくることなどについて、学校生活の中で指導している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教員の割合(2015年度 96.3%→2016年度 100%)</p> <p>保護者アンケート「学校は、子ども同士の人間関係に配慮しながら指導している。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者の割合(2014年度 69.2%→2015年度 78.0%→2016年度 83.7%)</p> <p>教員アンケート「私は、児童間の人間関係を円滑にするための配慮、指導をしている。」に対する「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教員の割合(2015年度 100%→2016年度 100%)</p> <p>保護者の回答ではアンケート項目での肯定的な回答の割合はいずれの質問においても昨年に比べて良くなっていた。特に、保護者アンケート「学校は、子ども同士の人間関係に配慮しながら指導している。」に対する肯定的回答が昨年度は 8.8%、今年度も 5.7%向上し、80%を超えてきた。意識を高めて取り組んできた成果が表れてきている。また、教員からの回答では昨年に引き続き、さまざまな機会を生かし、命の大切さや仲間づくりを進めてきたことが分かる。特に、教員アンケート「私は、挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーが児童に身につくよう適切に指導している。」「私は、命の大切さや良好な人間関係をつくることなどについて、学校生活の中で指導している。」「私は、児童間の人間関係を円滑にするための配慮、指導をしている。」では 100%の肯定的な回答を得た。今後も継続していくことで、さらなる成果を求めたい。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>これまで同様、礼拝や講話、授業研修などのあらゆる場面で命の大切さや仲間づくりの良さを意識した取組を続ける。</p> <p>全学年を通して、日々の生活で繰り返しの指導が必要な児童が顕在化している。担任、学年団、学事委員会で情報を共有するとともに、指導方針を明確にして、保護者と協力しながら指導を進めていく。</p> <p>教員間での取組や意識には、まだ幾分かの差異がみられる。教師会での学事委員会報告などの機会を生かして、キリスト教主義教育に基づいた関西学院初等部の生</p>

	徒指導をすべての教員が同様に展開できるようにする。
--	---------------------------

評価項目 【テーマ】	研修（資質向上の取組） 【“Mastery for Service” の体現をめざす ～かかわり合いの質を高める】	自己評価	B
目標	<p>ミッションステートメントの主旨には、「他者への関心と思いやり」が“Mastery for Service”を支えるとある。「他者と対話し共感する能力」を持ち「よりよい世界を創造」することが我々のミッションである。初等部での教育活動が、こうした力の獲得をめざすものであることを常に確認し続け、それに応えうる教員集団としての資質向上をめざす。</p>		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<p>具体的な取組</p> <p>【学校公開会の実施】 全国の教員に対して、初等部の授業を公開する（2/18）。約 700 名の参加者に対して、合計 20 本の授業が公開される。また、新学習指導要領に関する対談や、関西学院大学村尾信尚教授を招いての講演などを企画した。公開授業のうち 6 本は事後検討会を開き、参加者と意見を交流する。「かかわり合い」が成功しているのかどうかに焦点をあてる。</p> <p>【キリスト教学校教育同盟関西地区小学部会 西日本小学校教職員協議会の実施】 12 年に一度回ってくる協議会を、初等部で行った。これまでは実践報告を主とした会であったが、はじめて児童の姿を観ていただいた。6 年生の授業を公開し、協議会を行った。司会進行等も全て初等部教員で行い、会全体の調和を図った。</p> <p>【校内研修 公開授業】 4 名の教員による公開授業を実施した。全教員で同じ授業を参観して協議を行った。中でも第 2 回の公開授業では、ゲストの筑波大学附属小学校教員と初等部教員が同じ単元で授業をし、学びを深めるという形態で実施した。</p> <p>【校内研修 その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学 教員間の「授業見学」を奨励した。年間 6 回というノルマを課して他者の授業を参観した。指導案は不要。観る方も観られる方も負担が少なく、互いの授業について話し合うという文化が生まれることをめざした。 ・読書会 研修委員会主催の読書会を月に 1 回のペースで実施した。心理学から経済学、企業のホスピタリティに至るまで、ジャンルは多岐に渡る。任意参加ではあったが、毎回盛んな話し合いが行われ、物事の見方・考え方に新たな視点が加わった。 <p>取組内容に関する評価・分析</p> <p>【児童】 児童アンケート「学校は楽しいですか」という問いについては、肯定的回答が 93.2%と極めて高い。なかでも、「強くそう思う」を選択した児童が昨年度 51.7%から本年度 55.7%に上昇した。学校の楽しさは多様だが、中でも授業の充実が学校教育の本丸。「授業は楽しいですか」93.3%、「授業はわかりやすいですか。」93.5%と高い値を示している。学校の楽しさと授業の楽しさが密接に関わっているだろう。授業を楽しみと感じられるかどうかには、参画の度合いが深く関与している。自分たちが見つけ出したと思えるかどうかは重要だ。他者の良さに気づき、信頼関係が深まる授業を模索している。コンテンツとコンピテンシーどちらをも同時に育てる授業を日々研究・研修していることの成果は少しずつだが着実に表れている。</p>		

児童アンケート「授業では、自分から進んで、友だちと話し合ったり、考えたり、まとめたりしていますか。」は「かかわり合い」についての直接的な問いになるので、特に動向に注目している。本年度は85.4%（前年度84.7%）と微増。「強く思う」を選択した児童も33.4%（前年度31.2%）と微増。まだ伸びしろがある。

【保護者】

保護者アンケート「子どもは、学校に行くのが楽しいと感じている。」という問いでは、肯定的回答が95.2%あり、児童から見た楽しい実感よりも高い。保護者アンケート「学校は、基礎的知識や技能が定着する授業を行っている。」は83.8%（前年度81.5%）、保護者アンケート「学校は、基礎的知識や技能を活用する場面を取り入れた授業を行っている。」は80.0%（前年度81.4%）となり微減。ほんのわずかであるが活用場面から習得場面へのシフト傾向がみられる。しかし私たちが狙う授業は、本質を捉えることで他の事象に転移が起こるような授業である。定着を図りながら、活用場面で活発にかかわれる授業をめざしている。基礎と活用、どちらかに偏るのではなく、どちらもが同時に伸びを示す授業を今後も追求する。

保護者アンケート「学校は、楽しくわかりやすい授業にするために工夫をしている。」という項目については88.4%（前年度89.5%）の肯定的回答となっている。児童の実感93.5%よりはあきらかに低い。保護者にとっては「わかりやすさ」と「学力」はセットで捉えられるため、実際に力をつけて初めて評価される項目といえるだろう。楽しいだけでなく、子どもの育ちで証明する必要がある。この質問の評価を上げることが今後の課題である。

【教員】

教員アンケート「私は、計画的に授業を行い、児童に内容を定着させている。」の項目では、100%の教員が肯定的回答を行っている。教員アンケート「私は、授業研究を積み、児童が魅力を感じる授業を展開できるように努めている。」の項目でも93.3%の教員が肯定的回答をしている。教員アンケート「私は、授業研究や公開授業を通して、自身の授業力の向上に努めている。」という項目では100%が肯定的回答。ただし、学力の「定着」に関する意識は保護者83.8%との乖離が見られる。定着を図っていることは事実だが、実質を伴った授業を心掛けたい。

今後の方策

【授業研究】

研修委員会の活動の中心はこれまでも、そしてこれからも「授業研究」である。「予測不可能な未来を力強く生きていくための力を育てている」という責任感を持ちたい。我々の受けてきた教育とは異なる価値観を必要とする次世代の教育を求められていることを初等部教員全員で自覚したい。そのために授業のありようを更新し続ける覚悟を持って研修を進める。

今年度は「小授業」制度（全教員が年間一度は指導案を書き授業を公開する制度）を廃止し、「授業見学」制度（自由に互いの授業を見合い、気づきをシートに記す）を採り入れた。負担感の軽減にはつながったが、中には年間一度も公開授業をすることのない教員を生んだ。特に若手教員にとって授業公開の果たす役割は大きく、学びの機会が減っていることが危惧される。「授業見学」制度も、時間割上の問題や、自由度の高さゆえの問題が起こっている。安心して気軽に互いの授業を共有し、授業について語り合える場を提供すべくアイデアを練る。

読書会は任意参加だが、ニュースレターを出すなど、話し合われた内容を公開することで興味関心を高める。

【学校公開】

昨年度よりも約200人増の参加者に恵まれた。地道に続けてきた学校公開の口コミ評価の広がりを感じている。

【その他】

「アクティブラーニング」について、我々なりの見解を持ち、日頃の教育に活かせる企画を打つ。新学習指導要領の内容を正しく理解するための勉強会を開く。アンガーマネジメントやファシリテーション、構成的エンカウンターグループなど、教師としての資質向上を目的とした企画を提案する。

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

「キリスト教主義教育」は聖書に親しむ会、聖書講座などの行事に加え、日々の礼拝や聖書科授業の継続により、高い評価を得ている。「教育課程・学習指導」では、楽しく、わかりやすい授業が評価されている。

「研修」での活発な取組が成果としてあらわれている。初等部の教育課程の一つの特徴であるKGタイムについては、新学習指導要領を踏まえ、今後、カリキュラムを改善し、定着すべき学力をより明確にしていく。

「生徒指導」については、一つひとつの事案に対して、教員間で共通意識をもって丁寧に指導してきた。今後も継続する。

保護者アンケート「初等部の教育には満足している。」では83.5%の肯定的評価となっており、全体的な評価は高い。キリスト教主義を土台とした建学の精神やスクールモットー“Mastery for Service”を大切にしていた日々の教育活動が児童や保護者に理解されていると考えられる。

2016年度の評価をふまえて2017年度に予定している評価項目、テーマ等

キリスト教主義教育
教育課程・学習指導
生徒指導
研修（資質向上の取組）

第三者評価／学校関係者評価

朝の礼拝に参加させていただきました。全校児童、教職員がチャペルに集い、共に聖書の言葉を聴き、讃美歌を歌い、祈り、話に耳を傾けることは大切なことです。キリスト教主義教育の土台は礼拝です。これからも誠実に守り続けることを願います。キリスト教主義教育は、学校の雰囲気、教員たちの児童への関わりが非常に重要です。児童への言葉のかけ方、関わり方、行動等、教員一人ひとりが自分に問い続けることが大切です。

児童の興味、関心に応じた教材研究、授業が展開されていたこと、5、6年生では、教員の専門性、授業レベルが同じになる等から、教科担任制を取り入れたことは評価できます。また、学校行事の取組でプロセスを大切にしていることは、心の育ちに重点をおいており、評価できます。

登校後、休み時間の様子を参観させていただき、同学年、他学年で遊ぶ姿から他者を思いやる姿がたくさん見られました。日常生活の中で、キリスト教主義教育に基づき生徒指導がなされていると感じました。今後の方策にも記述されていますが、「キリスト教主義教育に基づいた関西学院初等部の生徒指導をすべての教員が同様に展開できるようにする」ためにも、全教員でキリスト教主義教育の研修に参加し、研修内容を共有し、研鑽することを望みます。

教員の資質向上としての研修について、公開授業、授業見学は有効な取組として評価できます。教員同士で授業の振り返り、省察をすることで質を高め、児童にとってより良い授業ができるように、この取組を継続してほしいと願っています。

学校生活を参観させていただき、多くのクラスで真剣な中にも楽しく学習している姿を見ることができました。キリスト教主義教育の理念が児童・保護者・教員に理解され、児童の豊かな人格形成への成果が見られます。学校が楽しい、授業が楽しいと感じている児童がとて多いこと、また授業がわかりやすいと 93.5%の児童が答えていることも高く評価できます。保護者のアンケートにおいても、肯定的な回答の割合がいずれの質問においても、昨年と比べ良くなっており、初等部の先生方の努力が確実に実を結んでいる結果であると思います。

特色ある教育活動の一つとして、1年次からコミュニケーション能力の育成を図り、英語教育においても、7割近い児童が英語が好きであるとアンケートで答えている点は、評価できると思います。ただ、それ以外の児童がなぜ否定的な回答をしたのかを、より分析・検討してほしいと思います。初等部の児童に対する英語指導法は難しいと思いますが、英語によるコミュニケーション能力を高めていくための基本スキルを、楽しさや達成感を感じさせながら実施するための指導方法や指導体制の工夫を、今後さらに期待しています。

アンケートの結果は、全般的に良い結果でした。各項目の評価が高いことに、教職員による日々の研鑽を感じることが出来ます。

児童を対象としたアンケートでは、「学校は楽しいですか。」という問いにおいて肯定的回答が93.2%、「授業はわかりやすいですか。」は93.5%、「授業では、新しいことをたくさん知ることが出来ますか。」は93.0%、「音楽や図工は好きですか。」は95.3%という値になっており、高く評価できます。

「英語は好きですか。」という問いにおいても、肯定的回答が7割程度あり、良い結果だと言えます。ただし、3割の児童が英語の授業に苦手意識を感じていることには注意が必要です。これは、昨年度（2015年度）の結果とほぼ同じでした。英語の授業の何が「好き」という回答から遠ざけているのか、何が「わかりやすさ」の達成を難しくさせているのかを、子ども、保護者、教員という三つの観点から分析・検討し、改善に向けた学びの場を具体的に設定する必要があります。英語教員だけでなく、他教科・他領域を専門とする教員との連携のもと、「アクティブラーニング」などの方法論を基盤にした、子どもたちが「うきうき・わくわく」できる英語の授業が求められます。

初等部における英語教育に関する中期・長期的な見通しとしては、英語に苦手意識を感じる児童が集まり、比較的容易な英語を話したり聞いたり書いたりすることで英語を少しでも好きになる（自信を回復できる）ことをめざす学びの空間が必要です。

授業や休憩時間の様子を参観していると、どの児童の表情にも明るさや積極性を見てとることができました。キリスト教主義教育、学級経営、生徒指導、教科指導等の取組が充実しているのだと想起されます。今後も、「かかわり合いの質を高める」という点から、教科・領域の時間を充実させていただきたく思います。

キリスト教教育に関しては、初等部で実施されている全学年の保護者対象の聖書講座やPTA活動の一環としての「聖書に親しむ会」、勿論毎日先生方や児童が交替でメッセージを伝える全校礼拝が有意義なものとなっており、非常に高く評価できます。

教育課程や学習指導では、先生方がお互いの授業を見学しながら、児童たちにより分かりやすい授業をいかに実施するかを日々検討している成果が、高い評価へとつながっています。授業がわかることが、児童の学校生活が楽しくなるためにとっても大事な部分を占めるので、これからも更なる授業研究が期待されます。

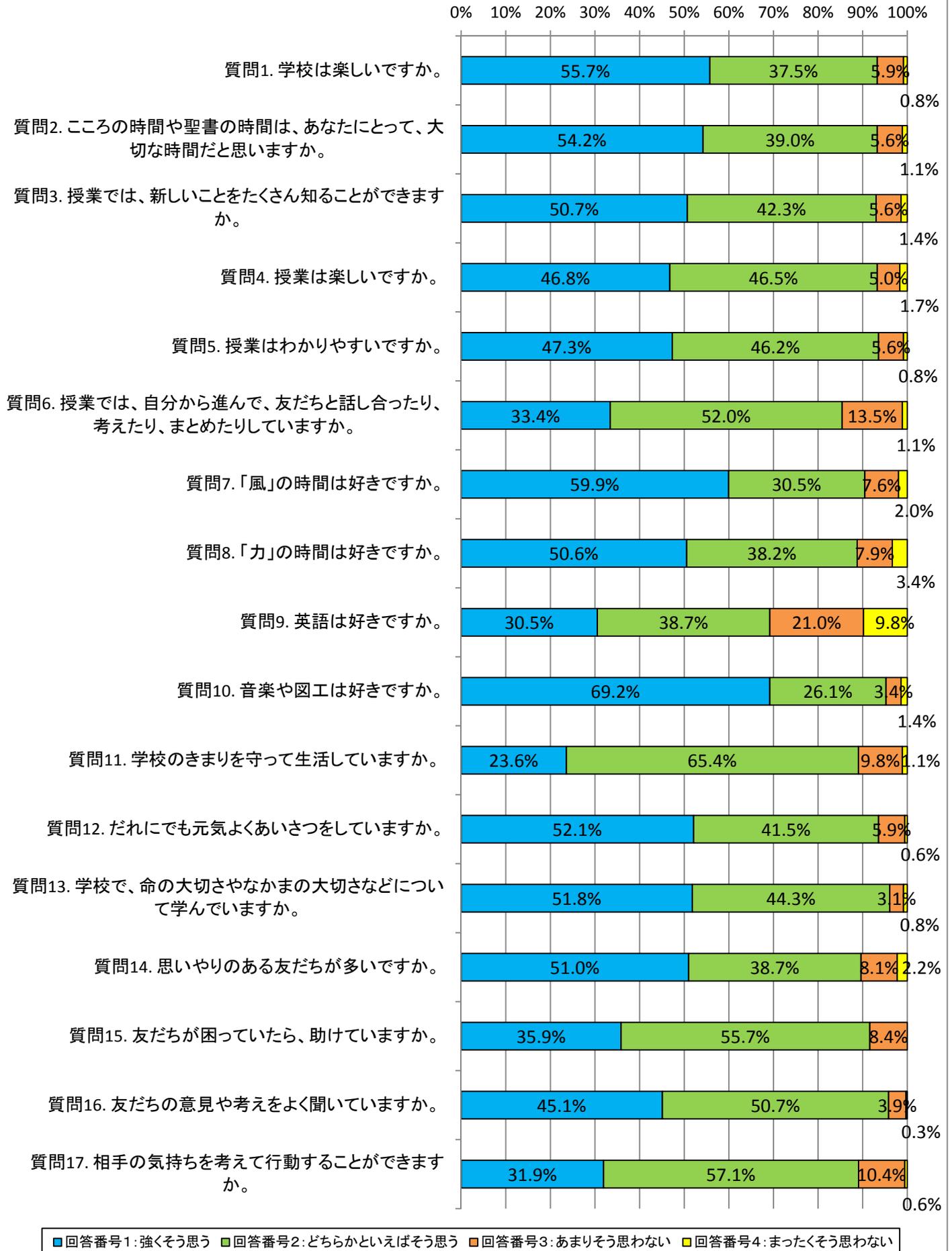
生徒指導については、小学生にとってクラスでの人間関係は非常に重要であり、保護者アンケートでの「学校は、子ども同士の間人間関係に配慮しながら指導している。」に対する肯定的回答が昨年度は8.8%、今年度も5.7%向上し、80%を超えてきたことは、高く評価できます。年齢が下がるにつれて、日々のきめ細かい指導が大変だと思いますが、教員が共にそばにいて見守ってくれていることが、

児童たちへの安心感につながるので、これからも全体としてその姿勢を大事にしてほしいと思います。

研修に関しては、以前から学校公開をはじめ、初等部ではかなり労力と時間を割いて実施していることが伝わっており、「予測不可能な未来を力強く生きていくための力を育てている」という考え方も賛同します。未来を切り開き、簡単にあきらめたりせず、その根底には人間力の最高峰としての誠実さ、人の痛みのわかる人間へと成長できる力をこれからも育ててゆくことが期待されます。

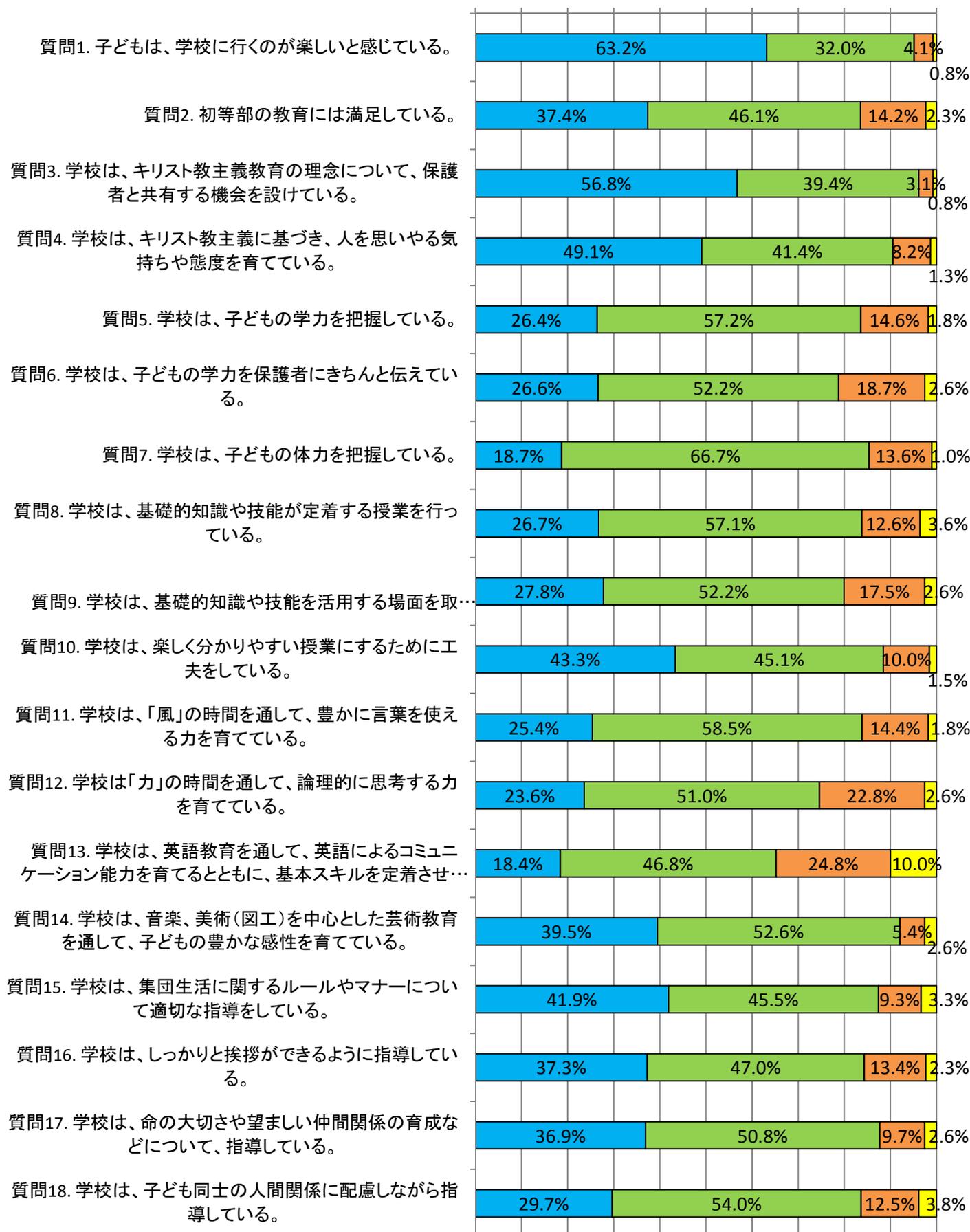
2016 年度学校評価

2016年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・児童3年生～6年生（回収率 99.1% 357人/360人中）



2016年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・保護者（回収率 71.8% 391人/544人中）

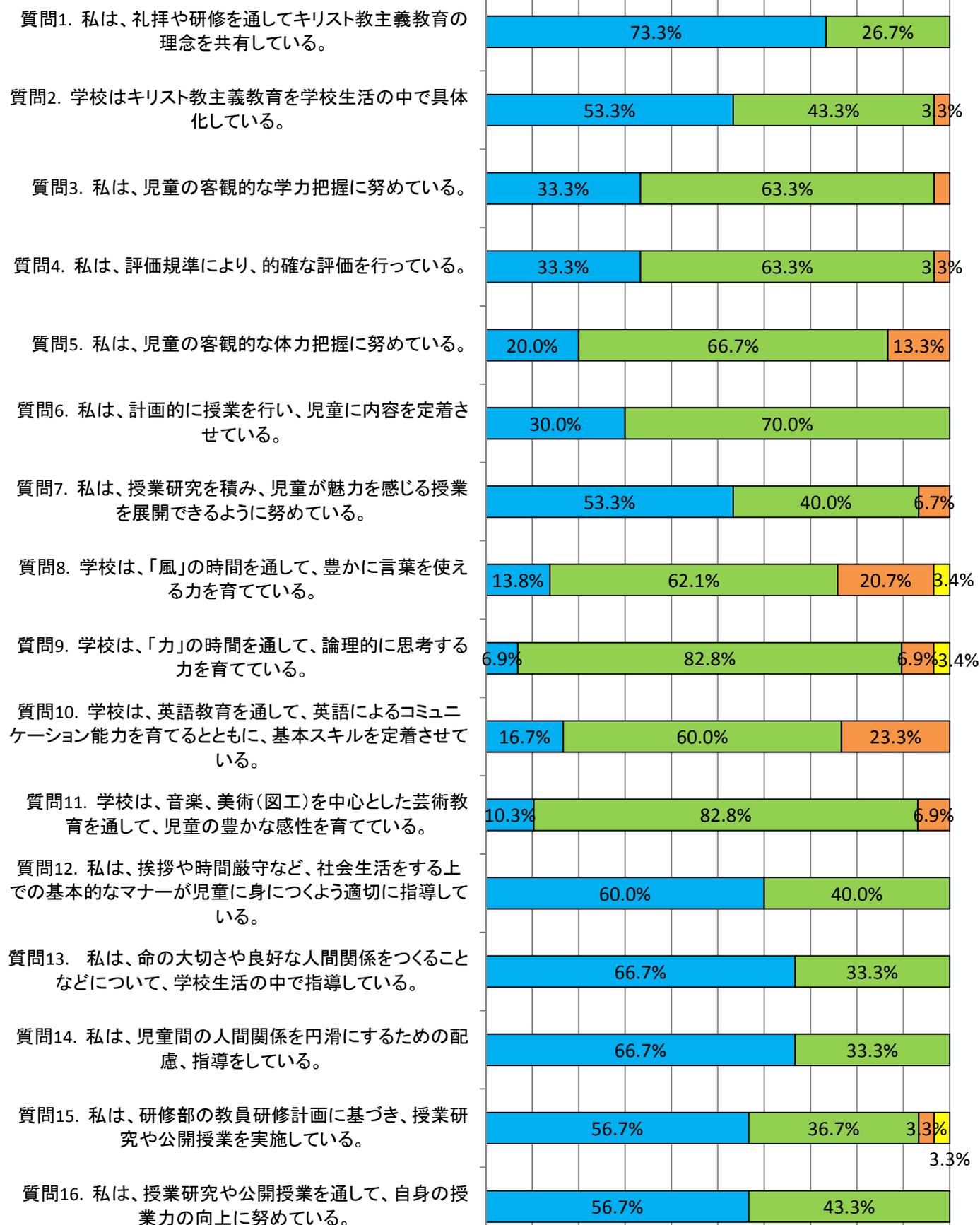
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったく思わない

2016年度 学校評価アンケート集計結果
初等部・教員（回収率 100% 30人/30人中）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない